

05 陸奥湾のホタテガイ 養殖振興について

Q 福士

令和4年のホタテガイの採苗不振に伴い減収となった場合の漁業者の経営安定対策について伺いたい。



なおはるの想い

経営安定には一過性の収入補填の他、漁業者にとっては死活問題となる稚貝の採苗不振への対策が不可欠です。漁業者への稚貝の確保に向けた親貝の重要性の一層の周知と、安定的な稚貝確保ができるよう、今後も継続的な支援が必要であると考えます。

この他

- ▶「青森空港の国内航空航路の活性化について」
 - ▶「蟹田一脇ノ沢航路の維持・活性化について」
 - ▶「三厩今別地区水産生産基盤整備事業について」
 - ▶「農山漁村を支える地域経営体の育成について」
- 質問しました。

A 県

ホタテガイの採苗不振に伴い減収となった場合の対策として、漁業共済と漁業収入安定対策事業(積立ぷらす)がある。陸奥湾でホタテガイ養殖を行う漁業者は、ほぼ全員両方に参加し、減収となればその契約内容に応じた補填を受けられる。

要望活動

陸奥湾ホタテガイ養殖要望

県農林水産部へ平内町議会議長と共に、「稚貝の確保対策」、「陸奥湾全体での対策協議会の設立」を要望しました。



調査活動

農林水産委員会 県内調査

農林水産委員会で三八地域へ県内調査に行ってきました。2日間で9カ所を調査するハードスケジュールでしたが、各調査地で直接お話を伺うことはとても貴重な経験であり、課題についてもより深い話が出来ました。今後の議会活動に生かしていきたいと思えます。

JR津軽線の活性化を考える会

住民の足を確保し、沿線自治体の活性化を図る目的でJR津軽線(蟹田一三厩間)の復旧に賛同し同会の要望を受けました。



編集後記

第7号となります今回の議会広報は第312回定例会での提出議案に対する質疑、第313回定例会での一般質問が主な内容となります。主として自然災害対策や長引くコロナウイルス感染症がもたらす悪影響への対策、資材や原油価格高騰への対策等県民の生活に直結する課題について県の考えを伺いました。また、陸奥湾のホタテガイ養殖振興や今別蟹田線小国峠のバイパス化の必要性は今後も継続して県政に訴えていきたいと考えています。最後まで読んでいただきありがとうございました。

福士直治 プロフィール PROFILE

- 学歴**
平成元年 青森県立青森北高等学校卒業(20回生)
平成5年 東北工業大学土木工学科卒業(23回生)
- 議員歴**
平成21年10月~31年3月 今別町議会議員 3期
平成31年 4月 青森県議会議員 初当選(現在2期目)
- 家族構成** 妻と子供2人

皆様のご要望・ご意見をお聞かせください

青森県議会議員

ふくし直治 議会報告

2023年 第7号

FUKUSHI NAOHARU NEWS



政治信条

地域に真っ直ぐな政治

間く 動く 伝える

〈発行〉ふくし直治 事務所
〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別144-2

重点テーマ

- 1次産業の振興 災害に強い地域づくり
- 地域医療・福祉の充実 新産業の育成
- 観光産業による地域活性化

間く・動く・伝える

間く… 私たちの地域に住む人、働く人の思いを直接聞いて政治活動に活かします。
動く… 皆さんの声を受け止め県政に訴え問題解決のために誠意をもって行動します。
伝える… 地域の声は県政へ、県からの声は皆さんへ私が必ず伝えます。

ご挨拶

日頃、わたくしの政治活動に対し、ご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。本年4月に行われました青森県議会議員選挙におきまして2期目の当選を果たすことができました。重ねて御礼を申し上げます。また、常任委員会では農林水産委員会副委員長を

拝命することになりました。東津軽郡は水稻、畜産、ホタテ養殖をはじめとして1次産業の盛んな地域なので、一層の重責を感じています。これからも「地域にまっすぐな政治」を信条とし東津軽郡の発展に貢献していきたいと考えています。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

青森県議会議員 福士 直治

県議会への提言 [令和4年12月議会] 提出議案に対する質疑

01 農業水利施設管理電力価格高騰 緊急対策事業費補助の内容・効果について

Q 福士

今年は大雨被害に追い打ちをかけ、資材や燃料費等の経費高騰で農家は非常に苦しい経営状況にある。農業者への適切な支援が必要であると考え、本事業の実施により、期待される効果について伺いたい。

A 県

本事業は、電力価格高騰の中、農業水利施設の安定的な管理に向けた、土地改良区の使用負担軽減を目的とし、管理に要した電気料金のうち、価格高騰に係る負担分を支援する。農業者が土地改良区に支払う賦課金の上昇を抑え、農業者の経営維持、農業用水の安定供給、豪雨による浸水被害防止など、農業水利施設が有する多面的機能の維持にも繋がることを期待される。

なおはるの想い

この事業によりまして、少しでも農家の負担軽減がなされ、農業者の生産基盤の維持につながるよう取り組んでいただきたい。また、土地改良区以外の任意団体についても市町村と連携を取りながら支援していただきたいと要望しました。



02 東青管内における被災した公共土木施設の本復旧に向けた取組状況について

Q 福士

八月の大雨被害によって道路の路肩が崩れて、バリケードで片側通行になっている箇所や、斜面が崩落してブルーシートで仮養生している法面等、大小様々な被害箇所が見受けられます。被災した公共施設がいつまでに復旧するのか、復旧に向けた取組状況について伺いたい。

A 県

早急に対策が必要であった外ヶ浜町三厩地区の増川川について応急工事を実施し、今後は国道339号の外ヶ浜町三厩梨ノ木間工区など順次復旧工事を発注します。今別川での堤防補修等についても、県費単独河川等災害復旧事業費により対応することとし、被災した公共土木施設の早期復旧に努めてまいります。



この他

- ▶「中小企業者等燃料価格高騰対策緊急支援事業の取組等について」
- ▶「冬季観光需要喚起事業の取組みについて」
- ▶「新型コロナウイルス感染症の外来診療体制の強化及び自宅療養者の対応について」
- ▶「洋上風力発電基地港湾指定に対する青森港港湾計画の改定について」 質問しました。

なおはるの想い

国の国土強靱化計画により推進された河川内の流木や土砂堆積の撤去が行われた地域では、大雨の影響が大幅に抑制されたというお話を伺いました。災害は、起こる前の予防策、そして再発防止が重要です。早期復旧に努めていくことが災害予防策の一つと考えます。



02 国道280号バイパスの冬期通行の安全対策について

Q 福士

冬期間の交通事故削減に向けた来年度の取組について伺いたい

A 県

交差点の進入路となっている箇所など防雪柵の設置が困難な箇所も多く存在するため、除雪の際には吹きだまりを除去するよう十分に配慮して作業を行っている。また、道路の視程障害が発生した場合の安全通行に役立つ自発光式視線誘導標についても、地元からの要望を踏まえ、必要性の高い箇所への設置を検討する。

なおはるの想い

私も、頻りに280号バイパスを利用していますが、自発光式視線誘導標はありがたく、設置されている区間とない区間では、運転者の安全性の確保が大きく違うと実感しております。設置個所の延長を要望します。

03 主要地方道今別蟹田線小国峠区間の機能強化について

Q 福士

冬期間の交通事故削減に向けた来年度の取組予定について伺いたい。

A 県

来年度は、冬期事故削減の対策の一つであるルートの見直しを検討するため、3D測量データを活用し、概略設計を実施する予定としている。概略ルートの検討に当たり、複数ルートを設定し、土地利用に関する制約などの視点で抽出された課題について、勉強会で検討していく。引き続き現道の冬期間の事故減少へ向けた分析や対策も同時に進め、冬期間の交通事故削減に向けた取組を進める。



なおはるの想い

年間平均5000万円という長期間の道路運用コストを客観的に判断すれば、散水消雪施設が必要のないバイパス整備が合理的であり、今回の災害や津軽線復旧問題など鑑みれば、一層平たん化整備、バイパス化を速やかに着手すべきであると考えます。

県議会への提言

[令和5年3月議会] 一般質問より

01 地域の生活を守る交通インフラの維持・充実について

Q 福士

JR津軽線見直しに関するJR東日本との協議について、県の対応を伺いたい。

A 県

JR津軽線は、地域住民の広域的な移動手段として日常生活や経済活動を支え、北海道新幹線の二次交通や、北海道と本州を結ぶ貨物輸送を支える重要な役割を担っていると認識している。今別・外ヶ浜町と連携し、早期の復旧と代替輸送の確保に万全を期するようJRに求めるとともに、期限を区切らず丁寧に最善の方策を検討する。

なおはるの想い

JR津軽線は、住民の生活の足としての重要な役割を担っています。県民と県、自治体が共通認識を持ち、鉄道を維持する、再生の方向で検討していくべきと考えます。広く様々な可能性を鑑み、関係各位の支援と協力を得ながら、県は、今別町、外ヶ浜町と連携して地域公共交通の維持に取り組んでほしいと考えます。

04 上磯地区の地域医療について

Q 福士

県立中央病院から外ヶ浜中央病院への医師派遣の現状と今後の対応について伺いたい。

A 県

医師の派遣については現在の常勤医2名から、令和5年度は4月から診療応援として医師2名を週一回ずつ派遣し、10月から常勤医1名を派遣することを提案し調整してきた。先般、同病院から、病院体制を縮小し、本年4月から常勤医3人体制での運営を選択したと連絡があり、来年度は診療応援のみ行う事とした。病院局としては、県全域を対象とした医師等の派遣を強化し、地域の実情や要望等を踏まえ、地域医療支援の充実に努めていく。



なおはるの想い

外ヶ浜町、今別町、蓬田村の住民にとって外ヶ浜中央病院は上磯地域の医療の要であり、救急医療の確保は行政にとって最大の使命です。県と外ヶ浜町が連携して地域医療を守る取組が必要だと考えます。